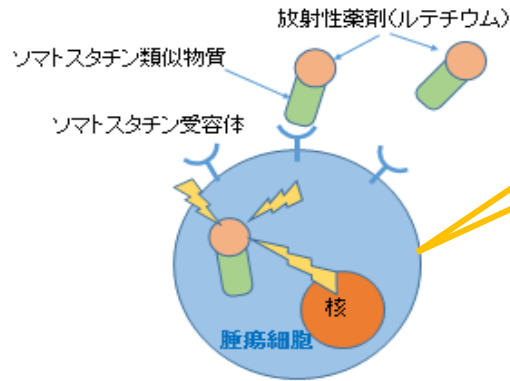


# ペプチド受容体放射性核種療法（PRRT）が 本院でできるようになりました。

神経内分泌腫瘍（NET）は稀な腫瘍で、膵臓や消化管、肺などさまざまな部位に発生します。治療は手術で取り除くことが可能であれば、手術による切除が選択されます。ただし、転移があり手術で全てを取り除くことができない場合には薬や放射線による治療が行われます。PRRTは海外で効果が示された放射線治療です。

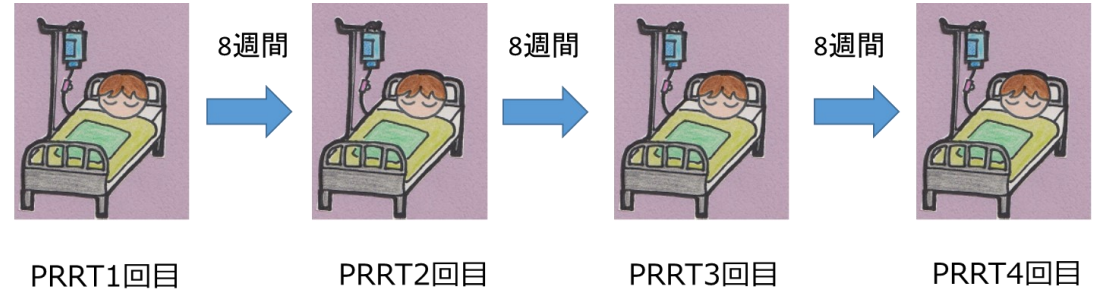
## ペプチド受容体放射性核種療法（PRRT）について

多くの神経内分泌腫瘍の細胞の表面には、ソマトスタチン受容体が存在しています。その受容体に結合する放射性薬剤（ルタテラ®）を点滴により投与する放射線治療の一種です。



腫瘍の内側から  
放射線で攻撃

治療は8週ごとに4回行われます

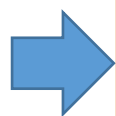


対象となる  
患者様

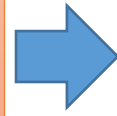
神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチン受容体シンチグラフィ検査（SRS）で陽性である場合、その他の検査と総合的に判断してPRRTの対象か判断されます。

## 治療までの流れ

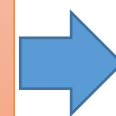
主治医と治療の相談  
(他院の方は主治医と  
相談してください)



PRRTを実施している  
病院の専門外来受診



治療のご理解をいただき、  
治療を受ける決定をして  
いただきます



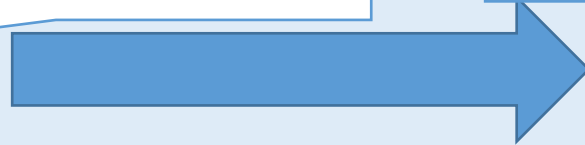
治療開始

保険適応と  
治療費に  
ついて

※保険適応の治療ですが、薬剤が海外で製造されているため、締め切り日を過ぎて患者様の都合でのキャンセルはできません。キャンセルされた場合は、薬剤費用を自己負担していただく場合があります。

治療の流れ

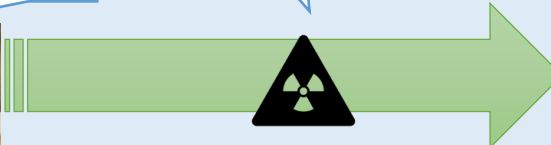
腎臓機能保護や吐き気予防の  
ための点滴を開始します。  
放射性薬剤（ルタテラ®）を  
投与（30分）します。



放射性薬剤を投与する  
ため、治療後は病室の  
外に出ることができま  
せん



放射線線量測定



翌日  
線量が基準値以下に  
なれば退院